

## 議会いきいきトーク記録

【第 班】

( / )

開催日時	令和2年 5月 8日 (金) 13時30分 ~16時30分
開催場所	養泉寺保育園
参加人数	三重県私立保育園連盟 桑名支部：下間賢了 加藤隆明 近藤寛 下間喜代子 議員3班：伊藤真人・富田薫・近藤浩・水谷憲治・渡辺仁美 議員参加：森下幸泰・森英一・多屋真美 計12人
参加者からの意見・要望等	<私立保育園連盟より挨拶> 旧来、桑名市の私立保育園は、大正8年より寺に人が集まり、農家の繁盛期などに子どもを預かったことから、昭和6年に国からの通達で託児が保育園となって始まり、昭和18年の戦時下においても1日も休まず開園してきた。精義小学校が焼けてしまった時も場所を提供することで地域に貢献し、昭和28年には、園舎を建てるために歩いて寄付を集めて設立した。桑名市が幼児期保育を私立保育園に委託している状況において、様々な要望は聞き届けられていない。子育てする親子にとって幸せになる保育をしていきたいという思いから、いきいきトークをお願いした。よろしくお願ひします。

<前年度からの引継ぎ要望・課題について>

①新型コロナウイルス感染拡大予防対応について

- ・マスクや消毒液の配布が足りない。
- ・資材が供給できないのであれば、現金支給をお願いしたい。
- ・保育士は実費でマスク等購入して対応している。
- ・保育支援員の要件緩和と補助額の拡大をお願いしたい。

②保育士確保について

- ・毎年桑名市には30名ほど保育士の応募がある。私立も魅力を伝えるなど求人努力もしているが、応募者につないでもらえないか。
- ・桑名市には保育士不足に対する切迫感がない。他の地域では保育士の取り合い。今は良くてもいずれ必ず切迫してくる。
- ・桑名市の優秀な人材に地元で働いてもらいたい。
- ・良質な保育を確保するという考え方が突破口だが、桑名市にはない。
- ・どうしたら桑名で働きたくなるかを調査することも必要。
- ・名古屋市は公立の給与と同額に水準を合わせて補助している。
- ・保育士が足りていないわけではない。強い思いのある良い保育士を確保することが重要。その保育士たちが桑名の20年30年後の保育を支えていくから。
- ・公立を希望する方はとても優秀な人材だから、ほしい。
- ・なんとかして私立保育園での就職につなげることはできないか。
- ・桑名は良質な保育を目指すという思いがあれば、その切り口で、あっせんに踏み込むこともできるはず。

③桑名市内の園の定員数について

- ・桑名市は未来のビジョンが描かれておらず、目の前のことの対処しかできていない。
- ・未来は子どもの数が減ってくる予測。15年や20年後の定員はどのように考えているか。
- ・子ども子育て会議が大きすぎる。課題に向けてもっと密に話し合っ意見やアイデアを出せる分科会が必要。団体長が集まって周知了解だけの会議なら意味がない。
- ・関係者と専門家が集まって今後どうしたらいいのか意見が言える機会、アドバイスマーティングなどを作っては。

④加配保育の在り方について

- ・障害と加配を混同しているところもある。
- ・加配が必要な子どものことを親に伝えるのが保育園スタッフというのは実際大変つらく、その後の関係性もよくないので困っている。間に専門家が入ることはできないか。
- ・定期的に保健師が園を巡回するなどして加配が必要な子どもを認定してほしい。そのあと保育園から伝えることならばワンクッション置くので傷つきにくく説明しやすい。
- ・特別支援学校への入学のための通知文も優しく無く、親を傷つけるもの。文章にもっと配慮することはできないか。
- ・特別支援が必要な子どもを6月までに「抽出」という文章自体聞き苦しい。

⑤副食費の問題

- ・本来の福祉の発想ならば、全員が同じ料金で食べられるものであるはず。
- ・まだ依頼した調査の結果が返ってきていないので待っているところ。
- ・返金のための手数料を私立だけ支払うのはどうか。補助してほしい。

⑥保育の質

- ・統一した教育のビジョンや指針がない。(例：文字と数を幼保のうちにどこまで教えるか。)
- ・共通カリキュラムがあるべき。保護者も困っている。

⑦幼保小の連携

- ・聞き取りの際は「何ができない子、何ができる子」ということではなく、「この子はどう接するとよい」などの前向きな方法を伝えたい。

<新型コロナウイルスについての対応>

①保護者への周知・休園や登園自粛要請の基準や機関の統一化

- ・対応していただいた。

②マスクや消毒液の援助

- ・マスクも消毒液も費用は園持ち。
- ・マスクは個人もちで保育士が困っている。
- ・購入のための補助をしてもらえないか。

③保育支援員の要件緩和（独自要件）と補助額の拡大

- ・そもそも国の基準がおかしい。桑名市に補ってもらえないか。
- ・人員を申請するが漏れるときがある。その際に打撃が大きい。
- ・消毒作業だけでも保育士がひとり取られるのはとても困る。
- ・しわ寄せは子どもに影響する。

④給食費の減免について

- ・公立だけ減免できることは公金の還付に当たらないか。
- ・このまま続けるのであれば私立も公金で還付してほしい。

⑤乳児保育量の減額をするのであれば、事前通知をしないと意味がないのでは？

- ・自粛協力と自己都合と休園の理由が違ってくる。本来は事前に通知すべき。

- ⑥このままでは保育士が疲弊して、離職につながりかねない。
- ・今回、あいまいな政策のせいで保護者からの苦情などを受けているのは保育士。
  - ・感染リスクの中で働いてもらうことへのねぎらいが欲しい。
  - ・四日市は12000円の上乗せをしている。

- ⑦保育園は開いていて当然ではない
- ・感染者が出て休園になってしまった時のことを考えてほしい。
  - ・保育士や看護師など、どうしても保育が必要な子供への対応を事前に考えてほしい。

- ⑧保護者からの相談窓口
- ・不安な親の話をちょっと聞いてくれる場所を作ってほしい。役所には電話しにくい。

	<p>⑨その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・桑名市は子どもたちのことを考えているとは思えない。</li><li>・何に対してもできないことを理由にされて前に進まない。</li><li>・職員に対しても、ここに勤めてよかったと思える桑名市にしてほしい。</li></ul>
班からのコメント	<p>3時間にわたりお話を伺い、私立保育園の現状がよく把握出来ました。</p> <p>保育士の求人や園定員数、加配保育、保育の質、副食費（食育）の要件については、幼保小連携のビジョンが明確でないことからの問題であると考え、ビジョンの作成を求めています。</p> <p>新型コロナ感染対策については、園の皆様のご苦勞は大変なものだったと感謝している。</p> <p>園や保護者そして子ども達のために、今回見えてきた保育の格差をなくし、非常事態にもスピード感をもって柔軟な対応ができるよう継続的に要望していきたい。</p>